（４） 表彰・閉会式

・表彰（完走賞）・特別賞抽選会（景品協賛品の抽選）

・閉会式

2. 実行委員会の実施

大会開催にあたって、スムーズな準備、運営を行うため組織として実行委員会を設置した。

実証委員会は、県内外の有識者７名の委員にて構成し、計２回の委員会を開催した。

（１） 実行委員名簿（敬称省略）

	氏　名	所　属	分　野
1	比嘉　常人	なぐまさぁーの会　代表	カヤック有識者
2	栂村　宙子	屋我地エコツーネット　代表	カヤック有識者
3	森　兵次	（一社）沖縄県サイクルツーリズム振興協会　会長	バイク有識者
4	田場 典淳	沖縄県山岳・スポーツクライミング連盟 理事長	ハイク有識者
5	佐藤　和志	SEA TO SUMMIT 連絡協議会　広報部長代理	イベント運営
6	中村　靖	沖縄ツーリスト（株）　取締役副社長	観光事業者
7	祖慶　良太	スマートリゾート沖縄やんばる推進協会　会長	観光まちづくり

（２） 第１回実行委員会

＜開催概要＞

日　時	令和元年９月１３日（金）18:00～19:00
会　場	名護市産業支援センター２Ｆ（中会議室）
議　題	・委員紹介 ・実行委員会規約の確認と委員長の選任 ・SEA TO SUMMIT 沖縄やんばる　実行計画の説明 ・業務連絡（次回委員会等について）
出席者	実行委員：６名、事務局：３名、オブザーバー：４名

（３） 第２回実行委員会

＜開催概要＞

日　時	令和元年１２月９日（月）18：00～19：30
会　場	名護市羽地支所　会議室
議　題	・実行委員会規約の変更について ・委員会役員について

	・大会運営に関する確認
出席者	実行委員：６名、事務局：２名

■集客人数

	県内	県外（国内）	県外（海外）	付帯参加	合計
目標（提案時）	50 名	40 名	10 名	50 名	150 名
実績	12 名	50 名	0 名	40 名	102 名

■集客人数増減理由

イベント参加者目標数値 100 名に対し実績数値 62 名と目標数値を大きく下回り、目標数値の達成に目標達成に至らなかった。

県外、県内別にみると県外は、これまでの SEA TO SUMMIT のプロモーション戦略を活用し、全国の多くの SEATOSUMMIT ファン、アウトドアスポーツに興味のある方へ訴求することができ、県外参加者目標数値 40 名に対し実績 50 名と目標を達成することができた。沖縄初開催ということも PR につながった。

一方、県内参加者は目標 50 名に対し、実績 12 名と目標を大きく下回った。要因として、県内のプロモーション活動は不足していたことが考えられる。イベント自体のポテンシャルがあるにも関わらず露出不足、認知不足なり、県内参加者目標数値を達成することができなかった。

■　実施報告

開会式

環境シンポジウム

ウェルカムパーティー

スタート（選手宣誓）

海のステージ（カヤック）①

海のステージ（カヤック）②

里のステージ（バイク）①

里のステージ（バイク）②

山のステージ（ハイク）①

山のステージ（ハイク）②

多野岳頂上（フィニッシュ地点）①

多野岳頂上（フィニッシュ地点）②

表彰式・閉会式①

表彰式・閉会式②

全員で記念撮影

■ 事業実施結果

SEA TO SUMMIT 沖縄・やんばる 2019 の参加者数は以下のとおり

◇参加者属性

参加者	40 組（62 名）
県外・県内	県内：12 名、県外：50 名
年　　齢	平均年齢：43.9 歳（最小年齢：21 歳／最高年齢：72 歳）
性　　別	男性：46 名　女性：16 名

【組数】

区分	組	人数
シングル	25 組	25 名
2 名チーム	11 組	22 名
3 名チーム	2 組	6 名
4 名チーム	1 組	4 名
5 名チーム	1 組	5 名
合　計	40 組	62 名

【県外参加者数（都道府県別）】

	都道府県名	人数		都道府県名	人数
1	北海道	3 名	11	愛知県	1 名
2	宮城県	2 名	12	京都府	1 名
3	山形	1 名	13	大阪府	8 名
4	埼玉県	2 名	14	兵庫県	1 名
5	千葉県	1 名	15	奈良県	3 名
6	東京都	11 名	16	鳥取県	2 名
7	神奈川県	3 名	17	島根県	1 名
8	石川県	1 名	18	広島県	1 名
9	長野県	2 名	19	山口県	2 名
10	静岡県	2 名	20	長崎県	2 名

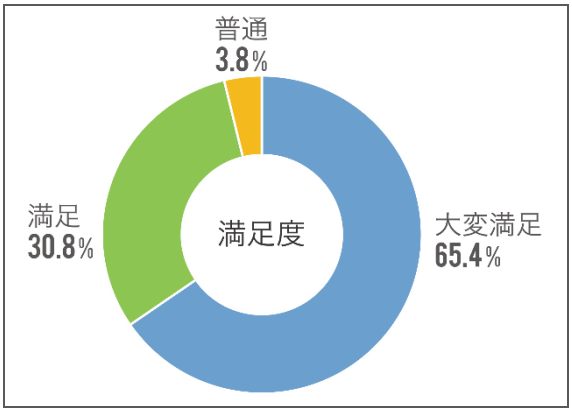
◇参加者アンケート結果

SEA TO SUMMIT 沖縄・やんばるの参加者へアンケート調査を行い、本大会の評価、また、今後の運営の基礎資料とするため実施した。

- 調査期間：令和元年 12 月 15 日（日）
- 場　　所：名護市羽地支所
- 対 象 者：SEA TOSUMMIT 沖縄・やんばる参加者、来場者
- 実施方法：アンケート用紙による自記式アンケート
- 配 布 数：60 部
- サイプル数：54 サンプル
- 回 収 率：90.0%

＜参加満足度＞

参加者のイベントの総合的な満足度に関しては、「大変満足（51.2%）」または「満足（41.3%）」と90%以上が「満足」と回答しており、非常に高い満足度を得た。



● 満足な点

満足した点として「沖縄の自然」に関連する感想がもっとも多かった。

＜主な意見＞

- 天気が良かったのが何よりです。景観、色彩が鮮やかで楽しすぎた。
- 沖縄の大自然に感動！
- 初参加だったが楽しめるコースだった。トークイベントも良かった。
- 沖縄を十分に感じられる内容でした。
- 美しい海で漕げて楽しかったです。
- 雄大なやんばるの自然を人力のみで、体感できるすばらしいイベントでした。

・ カヤック、バイク、ハイクをトータルで体験できること
・ コースや島の景色が最高でした！今回のガイドの方々と地元の人で楽しく交流できました。
・ フィールドと人が最高。食べ物も大変美味しい！
・ サイコーなロケーションで大会と観光が一緒に楽しめました！

● 不満足な点

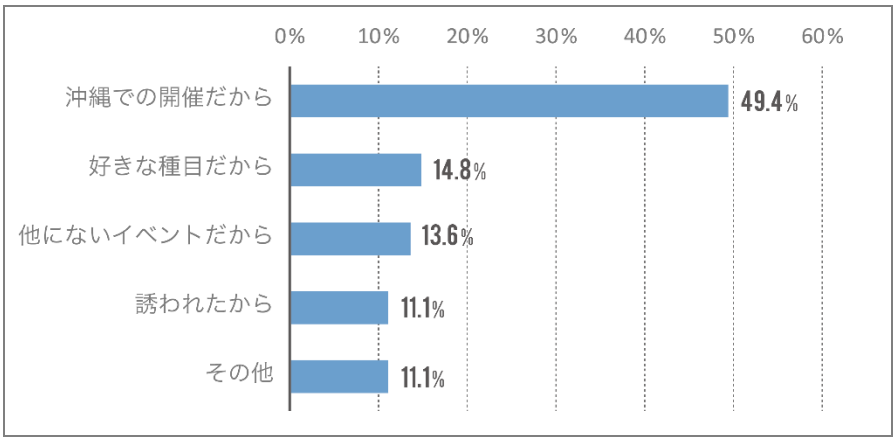
不満な点として、エイド、コース案内、距離に関する意見が多かった。

＜主な意見＞

・ バイクセッションは看板が少なく不安に感じた所があった
・ エイドが少ない点、エイドの対応
・ ハイクの前半の道路が長かったです。
・ コース案内の表示がややわかりにくい、公開されているルート図と現実が異なる。
・ 楽しみたくても時間制限が厳しすぎる。
・ 街の方の声援などがあると更に楽しいイベントとなったと思う。
・ 案内の不備（コース間違った)、利用できるトイレを地図に掲載してほしい。
・ 見どころを満喫しながらの 46km はながかった！30km ぐらいでいいかな
・ 給水ポイント（自転車）が少なかったように感じました。
・ 交流会で郷土芸能が見たかった。三線が見たかったです。

＜参加理由＞　n=81

参加理由について、今回、県外からの参加者が多いことから「沖縄での開催だから（49.4%)」と半数の方が回答。沖縄の自然の魅力、開催時期（冬場）などが他の地域では味わえない体験ができるということが要因だと考えられる。



＜今回の沖縄滞在での平均消費金額（1 人当たりの金額）＞

	項　目	金　額
1	ツアーで参加された方（航空券+宿泊）の消費金額	**54,444 円**
2	移動・宿泊手配を個人でされた方の消費金額	**47,086 円**
3	旅費以外の沖縄県内での消費金額	**53,645 円**

◇移動・宿泊手配を個人でされた方の消費金額
内訳

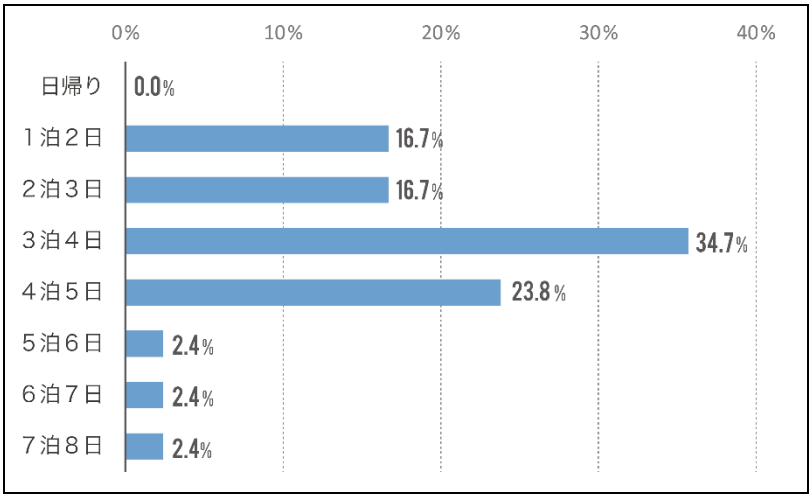
項　目	金　額
往復交通	31,598 円
宿泊費計	15,488 円
合　計	47,086 円

◇旅費以外の沖縄県内での消費金額
内訳

項　目	金　額
県内交通費（レンタカー含む）	13,170 円
土産・買物費	7,569 円
飲食費	11,924 円
娯楽・入場費	2,821 円
大会参加費	9,961 円
その他	8,200 円
合　計	53,645 円

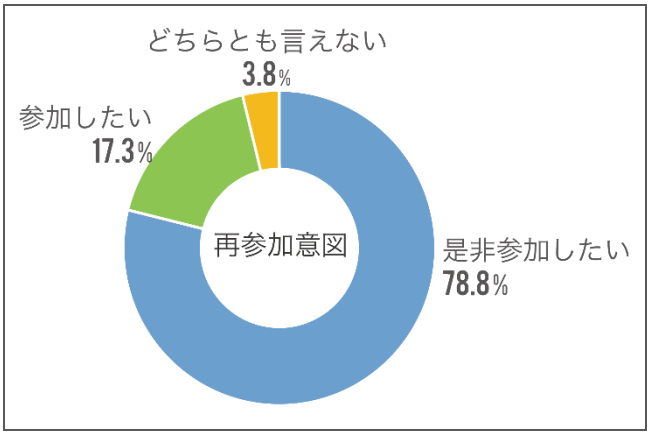
＜今回の沖縄滞在日数＞　（n=42）

今回の沖縄滞在日数は、３泊４日（34.7%）が最も多く、次いで４泊５日（23.8%）となっている。最長で７泊８日の参加者もいた。



＜再訪意欲＞　（n=52）

次回の参加について「是非参加したい（78.8%）」、「参加したい（17.3%）」とほとんどの方が参加したいと回答している。イベントへの期待でも「次回も参加したい」と継続開催を望む声も多かった。



・イベントへの期待

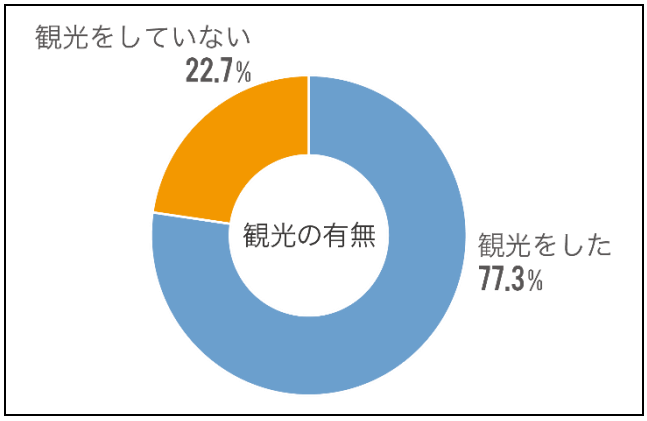
課題に改善はもちろんのこと、継続的に開催を求める期待がもっとも多かった。

＜主な意見＞

・毎年開催してほしい。
・来年はもっとたくさんの人に来てほしい
・このまま、自然を楽しむイベントを続けてほしい。
・新規の参加者が入りやすい雰囲気づくり。初心者向け部門など。
・各ステージの間に多くエイドステーションを
・コース図をもっと正確にしてほしい。
・時間制限の見直し
・パッケージツアー

＜イベント参加以外での沖縄観光＞　n ＝42

大会の前後に 8 割弱の参加者が「沖縄観光をした」と回答。観光した方は 2 泊 3 日から 7 泊 8 日滞在されていた。



■事業総括（課題と今後の展望）

今後の課題として、参加者アンケート、ヒアリングや関係者（運営、地域、自治体）ヒアリング結果を踏まえ課題の抽出を行い、誘客・コース設定・運営の３つの視点で整理した。

◇誘客について

- 県内プロモーションの強化（参加者の増加を図る、イベントの周知）
- エントリー方法の多様化（チケット販売方法）
- 海外参加者の誘客

◇コース設定について

- コース距離（自転車の距離の再検討）
- エイドポイントの充実
- 悪天候時の代替えコース、施設の検討

◇運営について

- 運営組織（事務局、カヤック、自転車、登山団体）の機能強化
- 周辺に自治体との連携
- 地域住民のイベント運営への参加
- 参加者と地域住民の交流機会の創出
- 県外参加者の域内受入れ（宿泊等）体制の構築

■今後の誘客目標人数

今年度の実績を踏まえ次年度以降の誘客目標を以下のとおりに設定した。

誘客目標	平成 31 年度（実績）	令和 2 年度（目標）	令和 3 年度（目標）
県内参加者	12 名	50 名	50 名
県外参加者	50 名	100 名	150 名
海外参加者	0 名	50 名	50 名
参加者計	62 名	200 名	250 名
付帯参加者	40 名	50 名	100 名
総集客数	102 名	250 名	350 名

■自走に向けた今後の取り組み

イベント自体の安心安全、満足度の向上はもちろんのこと、自走に向け継続的に安定した収益構造の構築が必要である。補助金、参加費、協賛金以外の収入源を確保しながらのイベント運営を行っていく。

令和 2 年度	➢ 「SEA TO SUMMIT 沖縄・やんばる 2020」の実施 ➢ 県内参利用者の増加を図る（県内プロモーションの強化） ・ アウトドアショップ等での PR ・ 参加者募集広告の出稿（新聞広告、ラジオ広告） ・ 定期的なパブリシティの活用 ➢ 海外参加者の募集 ・ 台湾へのプロモーション（WEB、SNS） ・ 地域スタッフ向けの外国人観光客対応講座の実施 ➢ 地域での組織構築（連携体の構築） ・ 会場自治体との連携 ・ 会場地域住民への理解と協力の確保 ・ カヤック、自転車、登山団体の連携強化
令和 3 年度 （自走 1 年目）	➢「SEA TO SUMMIT 沖縄・やんばるの2021」の実施 ➢国内、県内、海外へのPR活動 ➢イベント参加のパッケージツアーの造成・販売

	➢グッズ販売 ➢運営資金の確保（協賛金の募集） ➢運営組織の機能強化
令和４年度 （自走２年目）	➢「SEA TO SUMMIT 沖縄・やんばるの2022」の実施 ➢国内、県内、海外へのPR活動 ➢イベント参加のパッケージツアー販売 ➢グッズ販売 ➢他イベントとの連携（環境イベント、地域活性化イベント等） ➢運営資金の確保（協賛金の募集） ➢運営組織の機能強化

■総括

やんばる地域の自然をいかした新しいアウトドアスポーツとしての認知度が向上し、再訪希望者が多く、域外からの交流人口の拡大、持続可能な観光コンテンツの創出につながった。運営を通して、参加者募集・イベント周知、コース設定、運営、地域との連携など次回への課題を認識できた。

沖縄での初開催ということもあり、目標数値（100 名参加）に達しない中での開催ではあったが

参加者から「来年も参加したい」、「毎年開催してほしい」と継続的な開催を求める声が多く寄せられ、運営サイド、地域のモチベーションが向上した。

今後より良いイベントに発展させるとともに、地域、関連団体、自治体と連携し、やんばるの自然を活かしたアウトドアスポーツイベントと持続可能な観光地域づくりに取り組んでいきたい。

平成３１年度スポーツツーリズム戦略推進事業（スポーツイベント支援委員会運営業務）

フリースタイルフットボール沖縄オープン

実施報告書（概要版）

令和元年１月２２日　事業者Ｄ

■事業実施概要

【実施目的】

・新しいスポーツ「フリースタイルフットボール」の普及・発展による沖縄にスポーツツーリズムの活性化

・国際大会の開催による沖縄観光閑散期における国内外からの需要創出

・世界共通語である「サッカーボール」を使ったユニークなエンターテインメント性あふれるイベントが沖縄に定着することにより、沖縄をフリースタイルフットボールの新しい“聖地”としての発展・定着を目指す

【実施内容】

・主催：フリースタイルフットボール沖縄オープン実行委員会
（事業者Ｄ内）

・後援：沖縄テレビ・メイスンワーク株式会社

・実施日程：12 月 7 日（土）、8 日（日）

・実施内容：フリースタイルフットボール世界大会

・集客人数

① 参加人数

	県内	県外（国内）	県外（海外）	付帯参加	合計
目標（提案時）	30	50	10	200	90（290）
実績	9	59	14	不明	82 人

② ワークショップ参加者

	県内	県外（国内）	県外（海外）	付帯参加	合計
目標（提案時）	-	-	-	-	-
実績	30	20	20(中国・台湾)	不明	70 人

③ 観客数

	県内	県外（国内）	県外（海外）	付帯参加	合計
目標（提案時）	-	-	-	-	-
実績（土曜日）	-	-	-	-	4,000 人
実績（日曜日）	-	-	-	-	5,000 人

・集客人数増減理由：【集客】が、①大会参加者　②ワークショップ参加者　③エキシビジョンを含む観客数と KPI に変化があった。
・付帯参加者数の把握ができなかった。
・SNS での宣伝により、多くのフリースタイラーが県外から参加してくれた。
・外国人選手は沖縄県で開催することで、大会と旅行を一緒にする参加者が多かった。（きれいな海や景色を背景に個人の SNS 用動画や写真を撮影して帰る参加者がほとんどだった）
・国際大会を日本ですることの価値を感じて参加してくれた。

■ 実施報告

参加者集合写真

予選、決勝だけでなく、ワークショップ、エキシビジョン、抽選会など、終日様々なイベントを展開し、一日中多く観客を楽しませる大会となった。

フロアより上から観覧されている方が多く、４階まで拡がっていた。

大会写真（ステージ）

ワークショップ

エキシビジョン（抽選会）

エキシビジョン（トークショー）

■　事業実施結果

初回であり告知期間も短かったにも関わらず、世界１０か国以上のトッププレイヤーが参加していただき、「国内外からの集客」という目的は達成できた。大会のレベルとしても申し分ない内容となった。話題性も十分で SNS を通じてフリースタイルフットボール界として世界中に「沖縄オープン」の名前を知らしめる事ができた。大会運営役員の実感として来年は今回の倍以上のエントリーは間違いないと考えている。体験ワークショップも土曜日の１時間弱ではあったが、子供を中心に 70 名程度が楽しんでいた。

集客においても、音楽ライブなどと違いイベントの特性上、一日中、多くの観客が足を止めていた事は会場（イオンモール沖縄ライカム）からも高く評価された。一日辺り延べ 4,000～5,000 人（会場調べ） x２ 日間が観覧したとしている。会場は海外からの来場者も多く、世界の観光客に、他では味わえない沖縄での貴重な思い出を提供できたと思われる。

株式会社コンプ様がメインスポンサーに付いていただいたため、賞金を設定する事ができ、参加者にも好影響を及ぼした。また「完全食」という製品的にも親和性があり、選手控室やスタッフ控室でも多くの人が試していた。

沖縄テレビ、琉球朝日放送、琉球新報、沖縄タイムズと、テレビ局２社、新聞２社が取材に来ていただき、露出を獲得した。

■事業総括（課題と今後の展望）

大会は概ね「成功」と言い切って良い内容ではあった。しかし「大会」以外の施策として「外」に向けた仕掛けが何も着手できなかった。初年度という事が大きかったと思うが、コアスタッフの業務負担がかなり大きく各自の他業務に支障をきたす事もあった。一番は運営予算の問題で、申請時（応募時）の半分の事業計画のもと、大幅に体制と内容をスリム化して企画運営を行いなんとか収支をおさめたが、来期は参加規模の拡大が見込まれるため、運営スタッフの拡充は必須と考える。一方、既にメインスポンサーが来期も継続を表明しており、更なる協賛スポンサー獲得は可能だと思われる。

沖縄のフリースタイルフットボールの「聖地化」はそもそも一朝一夕ではないが、今年度は非公式に大会翌日に「アフタージャム」という形でフリースタイラーたちが集まっていた。来年は公式行事として事前事後の取り組みを計画し、フリースタイルフットボールの普及定着に着手したい。更なる盛り上げには、沖縄県予選の実施を行い、決勝ラウンドに沖縄出場枠を設ける事を検討したい。今回のアフタージャムが自然発生的であった様に、沖縄がフリースタイルフットボールで盛り上がる事により、フリースタイラーの沖縄への訪問も必然的に増えると考えられる。

今年も後援に付いていただいた「沖縄テレビ」が、来期は運営にも携わりたい（共催）とのオファーも頂いている。何れにせよ、早い段階の実施決定により、様々な機会（チャンス）が増える事が予想され、既にコアスタッフの間では新しい企画の構想を膨らませている。

平成３１年度スポーツツーリズム戦略推進事業（スポーツイベント支援委員会運営業務）

Asia × OKINAWA 空手交流イベント

実施報告書（概要版）

令和２年３月６日　事業者Ｅ

■事業実施概要

【実施目的】

日本の武道を代表とする「空手」の発祥地である沖縄をフィールドに、アジア諸国から空手の指導者を誘致し、沖縄空手の体験や技術の向上を目指し、且つスポーツを通じた様々な国際交流や、多くの外国人に日本・沖縄の文化に触れてもらう機会の創出、そして沖縄空手の普及・発展に貢献することを本事業の目的とする。

【実施内容】

・主催

事業者Ｅ

・実施日程

2020 年 2 月 20 日（木）～2020 年 2 月 24 日（月）

・実施内容

アジアを中心とした海外の空手家（指導者）を対象とした、沖縄県内で沖縄空手を体験・学ぶキャンプ。

① オリエンテーション

② 空手体験（少林流、上地流、剛柔流）、町道場での空手体験（稽古）

③ 成果発表会

・集客人数

	県内	県外（国内）	県外（海外）	付帯参加	合計
目標（提案時）	-	-	30	2	32
実績	-	-	10	2	12

・集客人数増減理由

当初の計画では、タイ・台湾・中国・韓国を誘客対象として、当社グループネットワークを活用し各国へのアプローチを実施したが、実施までの期間が短いこともあり、中国・韓国に関しては、空手関係者とのネットワーク構築が難しく見込みが薄かったため、タイ・台湾へ絞って集客することに計画を変更した。タイ及び台湾からの参加希望者を募ることができたが、タイ現地の事情により日程の変更が必要となったため、台湾からの参加が難しくなったことや現在世界中で広がっている「新型コロナウイルス」の影響により、タイからの参加辞退者が出てきたことから、計画よりも集客人数減という結果となった。

実施報告

■事業実施結果

イベント初日には、オリエンテーションを実施し、本イベントの背景や目的、概要の説明を実施した。その後空手振興会（空手案内センター）担当者より沖縄空手の紹介や空手会館の施設紹介等が実施され、「空手発祥の地＝OKINAWA」をより深く知ってもらうことができた。

2 日目からは空手の実践として、3 つの流派「剛柔流」「上地流」「少林流」の講師による指導を実施した。今回の参加者は全て「剛柔流」のため、「上地流」「少林流」は普段実施しない流派の体験となったことで、流派間の交流を図ることができた。また、タイで行われている「剛柔流」は、タイならではの形や動き方が入っていたため、沖縄伝統空手の形や動きを学ぶ機会となった。予定をしていた「町道場での交流」では、町道場への訪問および講師より稽古を受けることできたが、新型コロナウイルスの影響により地域の空手家との交流をする事は実現できなかった。また、イベント期間中に実施される予定であった県内の大会を見学し、交流する予定であったが、こちらも同様に新型コロナウイルスの影響で中止や延期や内部開催となったため、実現する事ができなかった。

成果発表会では、本イベントにて学んだ技術をひとりまたは複数名で講師や参加者に披露する場とし、講師から修了証を一人ひとりに贈呈することで、5 日間学びを得たことを自国に持ち帰り、周りの空手家や弟子へ伝えてもらうこと、また沖縄に足を運んでもらうための仕掛けとすることができた。アンケート結果でも、「指導者が熱心に教えてくれた」「良い経験だった」との回答があり、満足度は非常に高い結果となった。

■事業総括（課題と今後の展望）

新型コロナウイルスの影響により各種イベントが中止となっているなか、タイ剛柔流本部等の働きかけによりタイからの誘客、イベント開催ができたことは次年度以降につなげることができる成果であると感じている。また、台湾においても、参加には至らなかったものの、政府機関（高雄市や桃園市）を通じて学校へのアプローチをすることができ、興味を示していただけたところもあるため、次年度以降も継続してアプローチをすることにより、台湾からの参加者も見込めることがわかった。

次年度は、参加人数や参加国の増加（事業規模の拡大）を目指し、より沖縄への誘客や交流などを図ることができるイベント実施を目指す。そのために、各国の空手道場とのつながり、行政自治体との繋がりを強めていくことで参加者の確保を行なっていく。自走化に向けた取り組みとして、国内・海外（参加国等）にて参画企業を募り、アクティベーションとして本事業の活用をしてもらうことを目指す。

８．事業総括

（１）スポーツイベントモデル事業実施の成果及び課題等

〈成果〉

今年度、本事業においては新規枠で４事業者、定着枠から１事業者で合計５事業者への補助を行った。誘客数値としての成果は、県内集客数 8866 名、県外誘客数 4184 名、海外誘客数 719 名、付帯参加者数 4442 名、となった。新規枠においては、本事業で初めてｅスポーツをコンテンツとしたスポーツイベントが開催された。また、イベントを開催するうえで、ツール・ド・おきなわとの協力を行い、誘客効果を引き上げることに成功している。従来であればイベント主催者の個々での開催が主であるが、ツール・ド・おきなわでは選手出発後の付帯参加者の娯楽としてｅスポーツ体験ができ、ｅスポーツ側では誘客効果を図るなどして両イベントへの相乗効果が見込める点で、今年度以降のスポーツイベントの誘客力を向上する上では有効な手段であると考えられる。

SEA TO SUMMIT おきなわ・やんばるでは、昨今世界的な取り組みとして周知が拡大している SDGｓをテーマとした、持続可能性に重きを置いたイベントが採択されるなど、新しいマーケットの創出が成果として現れている。今後大きなスポーツイベントを開催するにあたっては、そのコンテンツを取り巻く環境の維持にも主催者側が意識していかなければ、参加者側から淘汰されてしまう可能性がある。例えばビーチサッカーのイベントであれば、大規模のイベントへと成長しつつある点で、ビーチ環境の保全目的も絡めた開催とすることで地域からも強い後押しを得ることができると考えられる。

また、イベント実施に先駆けて１０月末に事業者同士の中間進捗報告会を実施したことで、各事業者が共通して抱える課題や、誘客に向けての効果的なプロモーションの取り組みなどについて共有を行う有意義な場を設けることができた。年度末の最終報告会として３月に予定していた事業成果共有会は、残念ながら県内における新型コロナウイルス肺炎の感染拡大のリスクを回避する観点から、「新型コロナウイルス感染症対策のための沖縄県主催イベント等の開催への対応方針」が沖縄県より示され、本委員会もこれに伴い書面開催となった。今後は、長い目でこの新型コロナウイルス肺炎と社会が付き合っていく「ニューノーマル」の状態が続くと予見されるため、スポーツイベントの在り方を検討する上でも、例えば３密を控えるために参加者の間隔を一定程度空けることはもちろん、自治体等からサーモグラフィーを借用し入口に設置するなど、感染リスクを軽減しながら誘客効果を上げていくための整備が必要になると考えられる。

〈課題〉

今年度の補助対象となった５つのイベントの課題としては、収益構造の脆弱性が共通点として上げられる。本事業の補助を除けば、どのイベントも企業や自治体からの協賛金に大きく依存している部分が見てとれる。しかしそれでは将来的にイベントを継続していくうえでの確実性を見込むことが困難であり、安定的なイベントの継続と、更なる誘客力の強化を図っていく上では、既述したように既存の大型イベントとの協力を図ることで誘客のためのプロモーション費など原価を抑えつつ、コンテンツそのものを体験型にするなど、参加する選手だけでなくその付帯参加者や家族が一緒に楽しめるイベントとすることで参加料を徴収する、または現地で地元事業者にブースを貸し出し、出展料などで一定の収益構造を担保することが重要であると考えられる。

平成 31 年度スポーツツーリズム戦略推進事業
（スポーツイベント支援委員会運営業務等委託）実施報告書

編集・発行：　沖縄県　文化観光スポーツ部　スポーツ振興課
〒900-8570　沖縄県那覇市泉崎 1-2-2

受託事業者：　株式会社ＪＴＢ沖縄・株式会社ＪＴＢコミュニケーションデザイン共同企業体
（代表法人）株式会社ＪＴＢ沖縄
〒900-0029　沖縄県那覇市旭町 112-1

発行日：　令和２年３月